

令和6年度 校内研究の概要

1 研究主題

主体的にいきいきと学ぶ児童の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

2 主題設定の理由

社会の急激な変化を受け、都市化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化等を背景とした地域社会の繋がりの希薄化により、「地域で育てる子供」という考え方が失われてきている。児童においても、人間関係が希薄となり、良さや違いを認め合うことができず、不登校、いじめ、規範意識の低下等、本校でも憂慮すべき状況がある。また、児童の多様化により、従来の一斉指導だけでは、児童の学習意欲が低下すると考えられる。予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身でいるのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人ひとりが自らの能力を最大限に発揮しながら、よりよい社会と幸福な人生を創り出していくことが重要である。

本校では昨年度、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指す学習の工夫」をテーマに校内研究に取り組んだ。これは、「唐津の学びスタイル」に基づく学力・授業力向上プランに則ったものである。学年グループで教科を選択して全員が研究授業を行ったことで、以下のような成果が得られた。

- ①目的に応じて環境を整えることで、児童が目的や自分のレベルに合わせて、活動することができた。
- ②話し合う場を設定し考えを伝え合うことで、友達の考えを聞き、様々な考えの良さに気付く児童が増えた。
- ③教えたり、教わったりする活動が増え、児童が「存在感」「充実感」を感じながら学ぶ様子が見られた。
- ④多くの交流を促したことで支持的風土作りにつながり、トラブルが減った。また、普段は関わらない児童同士が交流する場面も多く見られた。

昨年度の実践で、教員にとっても、以下のような成果が得られた。

- ①大規模校の強みを生かし、個別最適な学びや協働的な学びについて、学年で共通理解をしながら、研究を進めることができた。また、様々な教科で個別最適な学びの要素を取り入れた実践を知ることができた。
- ②フィードバックシートを返すという形をとったおかげで、放課後の仕事に充てる時間を確保できた。
- ③公開授業のための研究ではなく、1年間を見通した校内研究になった。
- ④参観する授業を一人あたり3時間としたことで、負担を軽減しつつ、参観者を確保することができた。

昨年度の実践を通して、個別最適な学びと協働的な学びに肯定的に取り組むことができる児童が増え、自ら学習に取り組むことができる児童の数が増加した。しかし、まだ授業中の学習意欲に個人差がある。また、教科を絞らないにしても、研究に系統性をもたせ、学びを積み上げていく必要性が感じられた。

そこで、今年度も「主体的にいきいきと学ぶ児童の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～」を研究主題とする。昨年度の研究の流れを継続しつつ、単元構想をより明確にすることで、児童が4つの「感」（期待感・存在感・効力感・充実感）を感じながら学べるようにしていきたい。

今年度も、学年グループで興味・関心のある教科について研究しながら、他の教員の研究をすぐに実践できるよう環境整備にも取り組んで、それぞれの教員がより、意義を感じられる校内研究を進めていく。

3 研究の目標

児童が自分の特性や学習進度・到達度に応じて、主体的に対話活動に取り組み、考えを広げたり深めたりすることができるような、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる学習活動の在り方を探る。

4 研究構想図

学校教育目標

自ら考え行動し いきいきと学ぶ児童の育成

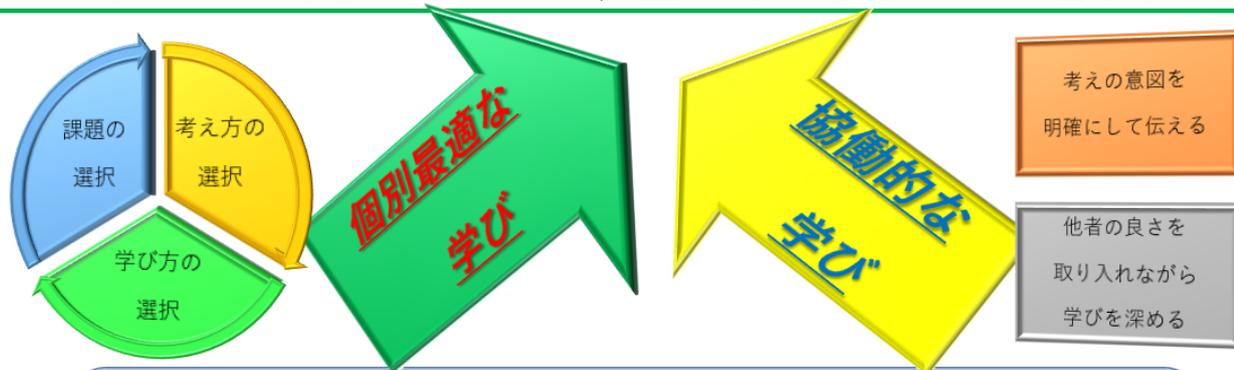
- ・か考える子・・・自ら考え、楽しんで学習する子ども
- ・ががんばる子・・・一生懸命がんばる子ども
- ・み認めあう子・・・認め合い、協力する子ども

児童の実態

- ・コミュニケーション不足によるトラブルが多い。
- ・大人数に慣れ、人任せにする児童が多いため、自分の考えをもたなかったり、もっているが深まらなかったりする。
- ・学習に意義や目的意識を感じていない児童が多い。

【目指す児童像】

意義や目的意識をもって、主体的に学習に取り組む子



【研究主題】

主体的にいきいきと学ぶ児童の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

5 研究計画

(1) 具体的な取組内容

- ① 研究推進部会において、発達段階に応じた目指す児童像を明確にしていく。
 - ア 新学習指導要領や本校の児童の実態から目指す児童像を明らかにしていく。
 - イ 研究推進部員を中心として、全職員の目指す児童像の共有化を図る。
- ② 学年グループで実践する教科を決め、継続して取り組み、成果や課題を把握する。
 - ア 考えを深める対話活動の工夫を考え、年間を通して実践する。
 - イ 授業中の児童の様子やノートやワークの記述等から、対話活動の工夫を修正する。
 - ウ 個別最適な学びの観点で学習活動の手立てを考え、年間を通して実践する。
 - エ Learning・Mountainを活用し、期待感・充実感を得られるような単元構想をする。
 - オ 学年グループに分け、進捗状況の確認や意見交換等を行う。
- ③ 教員それぞれの取組を共有するための環境を整備する。
 - ア 教員一人ひとりが実践授業を行い、実践の分析を行う。
 - イ 授業公開については、掲示板で示し、気軽に参観できるようにするとともに、授業者に意見等がフィードバックできる環境を作る。（略案・授業後のチェックシート等）
 - ※ 45分間の授業をすべて見に行くという意味ではない。
 - ウ 実践後に研究内容や児童の変容を振り返り、各学年で校内研究のまとめを作成する。
- ④ ①から③までの取り組みを分析・評価し、成果と課題を見出す。
 - ア ③ウの報告を全体で交流し、今後に生かす成果、今後取り組むべき課題を整理する。
 - イ 1年間の研究の過程を、研究冊子（PDF）としてまとめる。

(2) 研究組織

研究推進部部員で組織する。必要がある場合は校長，教頭，主幹教諭，教務を加えて拡大研究推進委員会を開く。また，特別支援部との連絡調整は適宜行う。

【役割分担】

- ①校内研全体構想（久浦・野崎・鈴里） ②アンケート（鈴里・山田龍）
 ③授業参観シート・フィードバックシート（竹下・山田龍）
 ④研究授業，授業研究会（緒方・鈴里） ⑤研究のまとめ（久浦・野崎）
 ⑥学びのあしあとファイル（竹下・緒方） ⑦「学習計画の型」作成（緒方・久浦）

(3) 日程

月	日	曜	内容(◎校内研, □部会, ★授業研, ・職員会議等)	備考
4	2	火	□6部会(研究についての提案)	
4	23	火	□6部会(授業参観シート・フィードバックシートについて)	
5	15	水	◎校内研(今年度の研究について)	
6	25	火	□6部会(指導案の型・事前アンケート・校内研の準備等)	
6	28	金	◎★校内研(講話①個別最適な学び・協働的な学びについて)	講師招聘
7	23	火	◎校内研(今後のスケジュール確認・事前アンケート結果分析)	
7	31	水	◎校内研(取組内容について各グループでの話し合い)	
8	30	金	◎校内研(取り組み予定の発表・参観授業の決定等)	
9	24	火	□6部会(校内研のまとめ・学びのあしあとファイルについて)	
			☆公開授業期間	
			◎校内研(講話②校内研の取り組みについて)	講師招聘予定
10	9	水	・職員会議(校内研のまとめの提案)	
1	25	土	◎校内研(研究のまとめ)	
2	5	水	□6部会(拡大研究推進委員会・来年度の研究について)	
3	5	水	・職員会議(来年度の研究について)	

※あくまで予定です。